

わがまち **さんぽ** 第3回

坂城町の身近な話題をお届けします。

= 暮らし支えた名水甘泉 = かんせん

—旧北國街道に息づく歴史と記憶—

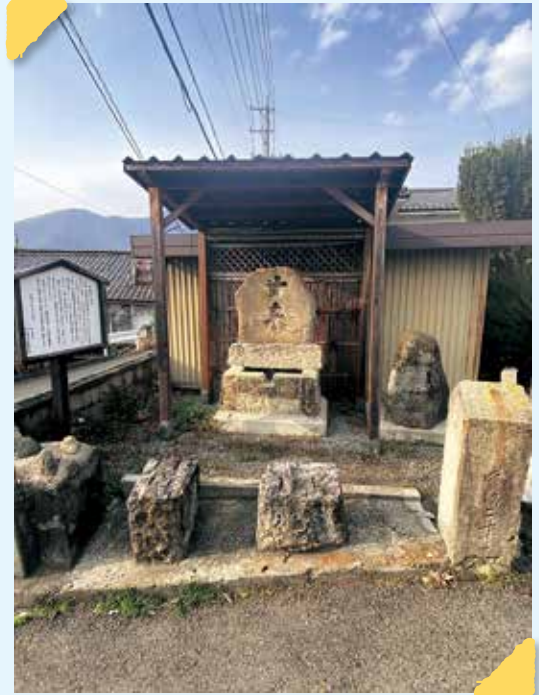
四ッ屋の旧北國街道沿いには、「甘泉」と呼ばれる名水があります。

名沢川なざわがわに由来する伏流水ふくりゅうすいが湧き出したこの水は、上水道が整う以前、井戸や池の水とともに地域の暮らしを支えてきました。

その由来は、石碑の説明にも記されています。

「名沢川に由来する伏流水が清水となって湧出し、人々の生活用水であり名水でもあった」とされ、古くから地域にとって欠かせない存在であったことがうかがえます。

その歴史は江戸時代にさかのぼります。文化・文政年間、地域をまとめる四ッ屋の組頭つかたじんくろう・塚田甚九郎が、この清水を地域の財産として後世に残そうと、代官あたにえんさい・男谷燕齋かつがいしゅう（勝海舟の叔父）に願い出ました。これを受けて「甘泉」と



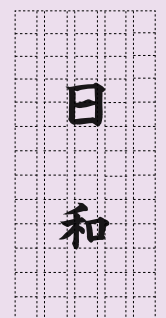
名付けられ、詩文とともに石碑が建てられたと伝えられています。

また、旧北國街道を行き交う人々に親しまれ、参勤交代の大名がこの水を用いたとも伝えられています。

現在は、当時のように水が湧き出ることはありませんでしたが、石碑の移転や修復、案内板の整備が進められ、歴史的な文化遺産として後世へ受け継ぐ取り組みが行われています。

かつて暮らしを支えたこの場所は、四ッ屋の歴史と人々の営みを今に伝えています。身近にあるこの場所に、あらためて目を向けてみてはいかがでしょうか。

つかた まい
塚田 舞



千曲川の流れに春の光がきらめき、町内の桜は満開から散り始めへと移ろい、足元には淡い花びらのじゅうたんが広がっています。

山々の稜線もやわらかな新緑に包まれ、町全体が春の息吹に満ちる頃となりました。

新年度の慌ただしさも少し落ち着き、新しい生活に歩み出された方も多いことと思います。

議会としても、町民の皆さまの暮らしに寄り添い、安心して過ごせる坂城町づくりに向けて、丁寧な議論を重ねてまいります。

穏やかな春の日々が、町中に広がることを願っています。

なかむら ただやす
(中村 忠靖)

発行責任者 議 長 中嶋 登
 広報発行対策特別委員会 委員 長 大日向進也
 副委員長 塚田 舞
 委員 星 哲夫
 中村 忠靖
 宮入 健誠